

令和6年度 授業計画 (シラバス)

科目名	成人看護学概論	科目区分	専門分野	授業の方法	講義・演習
対象学年	1 学年	単位(時間)	1 (30)	開講時期	1 年後期
<p>担当教員： 専任教員 <span style="float:right">実務経験のある教員による授業 <input checked="" type="checkbox"/></span></p> <p>成人看護の実務経験を活かし、成人期を理解するために必要な基礎的知識、成人教育を教授している</p>					
<p>《科目目標》</p> <p>役割や責任を果たしながら自立して生活している成人期にある対象の特徴を理解し、その人の力を高めていく関わり方の基礎を学ぶ</p>					
<p>《成績評価の方法》</p> <p>筆記試験・実技試験</p>					
<p>《使用教材(教科書)及び参考図書》</p> <p>ナーシンググラフィカ 成人看護学概論 メディカ出版</p>					
<p>《授業外における学習方法》</p> <p>文献学習</p>					
<p>《履修に当たっての留意点》</p>					
回数	時間数	内 容			教授方法
1	2	成人各期の特徴			講義
2	2	成人各期の健康問題 生活習慣に関連する健康障害			講義
3	2	健康レベル・経過別看護 成人への看護に有用な概念(病みの軌跡・セルフケア)			講義
4	2	成人への看護に有用な概念(ストレス・)			講義
5	2	成人への看護に有用な概念(危機)			講義
6	2	成人への看護に有用な概念(自己効力) 健康教育演習のオリエンテーション			講義
7	2	成人の学習の特徴と看護			講義
8	2	看護における教育・指導技術			講義
9	2	情報収集(面接)			演習
10	2	情報収集(面接)			演習
11	2	パンフレット・指導計画書の作成			講義
12	2	パンフレット・指導計画書の作成			講義
13	2	指導の実施及び評価			演習
14	2	指導の実施及び評価			演習
15	2	指導後の対象の状況の確認と評価(面接)			演習

令和6年度 授業計画 (シラバス)

科目名	成人看護の方法 I	科目区分	専門分野	授業の方法	講義
対象学年	2 学年	単位(時間)	1 (30)	開講時期	2 年前期
<b>担当教員：</b> 専任教員 <span style="float:right">実務経験のある教員による授業 <input checked="" type="checkbox"/></span> 成人看護の実務経験を活かして、主な慢性疾患患者の特徴やアセスメントの視点、看護の方法に関する基礎知識を教授している。					
<b>《科目目標》</b> 慢性期にある人の身体的・心理的・社会的特徴を理解し、セルフマネジメントできるよう自己の力を引き出す看護を学ぶ					
<b>《成績評価の方法》</b> 筆記試験					
<b>《使用教材(教科書)及び参考図書》</b> ナーシング・グラフィカ 成人看護学③ セルフマネジメント メディカ出版					
<b>《授業外における学習方法》</b> 事前学習・復習を行う。					
<b>《履修に当たっての留意点》</b> 資料はあくまで補助的なものですので、各自でノートを作成するとよいです。					
回数	時間数	内 容			教授方法
1	2	慢性期にある人への看護の考え方 慢性期の概念・慢性疾患とその治療の特徴・慢性期看護の特徴			講義
2	2	慢性期にある人の特徴 慢性期にある人の心理・社会的特徴 病みの軌跡・疾病ライフサイクルの及ぼす影響			講義
3	2	慢性期にある人の特徴の理解と看護援助 障害受容のプロセス QOL・エンパワーメント・自己効力感			講義
4	2	COPD についての理解・酸素カニューラ体験について			講義
5	2	慢性の呼吸機能障害を持つ人の看護(COPD)			講義・演習
6	2				
7	2	体位ドレナージ			演習
8	2	糖尿病の理解			講義
9	2	血糖測定			演習
10	2	糖尿病を持つ人の看護			演習
11	2				
12	2	慢性腎臓病の理解			講義
13	2	慢性の内分泌環境調節障害を持つ人の看護(腎臓病)			講義
14	2	肝硬変の理解			講義
15	2	肝硬変を持つ人の看護			講義

令和6年度 授業計画 (シラバス)

科目名	成人看護の方法Ⅱ	科目区分	専門分野	授業の方法	講義・演習
対象学年	2 学年	単位 (時間)	1 (30)	開講時期	2 年前期
<b>担当教員：</b> 専任教員 <b>実務経験のある教員による授業</b> <input checked="" type="checkbox"/>					
看護師として実務経験のある教員が、リハビリ期の疾患や患者の特徴、アセスメントの視点、看護援助方法について教授している					
<b>《科目目標》</b> リハビリテーションを必要とする人の、身体的・精神的・社会的特徴を理解し、セルフケアの再獲得ができるよう、自己の力を引き出す看護を学ぶ					
<b>《成績評価の方法》</b> 筆記試験・課題レポート					
<b>《使用教材 (教科書) 及び参考図書》</b> 系統看護学講座 別巻 リハビリテーション看護 医学書院					
<b>《授業外における学習方法》</b> 課題学習を行う					
<b>《履修に当たっての留意点》</b> 6～14回は事例を用いた看護過程を行うため、事前学習を行って講義に臨むこと グループワークを行うため、積極的にワークに参加すること					
回数	時間数	内 容			教授方法
1	2	リハビリテーション看護 時期・目的からみたリハビリテーション看護 リハビリテーション看護の対象と心理			講義
2	2	リハビリテーション看護の方法 障害者を支える制度 多職種連携のあり方			講義
3	2	運動器系の障害とリハビリテーション看護			講義
4	2	中枢神経系の障害とリハビリテーション看護			講義
5	2	呼吸・循環器系の障害とリハビリテーション看護			講義
6	2	看護過程の展開：オリエンテーション、事例提示			講義・演習
7	2	看護過程の展開：疾患理解			講義・演習
8	2	看護過程の展開：データベースアセスメント			講義・演習
9	2	看護過程の展開：全体像の理解			演習
10	2	看護過程の展開：フォーカスアセスメント・看護計画①			講義・演習
11	2	看護過程の展開：フォーカスアセスメント・看護計画②			講義・演習
12	2	看護過程の展開：援助計画立案			演習
13	2	看護過程の展開：看護の実際 (ロールプレイ)			演習
14	2	実施記録と評価			
15	2	看護過程の展開：まとめ			講義・演習

令和6年度 授業計画 (シラバス)

科目名	成人看護の方法Ⅲ	科目区分	専門分野	授業の方法	講義
対象学年	2学年	単位(時間)	1(30)	開講時期	2年後期
<b>担当教員：</b> 専任教員 <b>実務経験のある教員による授業</b> <input checked="" type="checkbox"/> がん看護・終末期看護を実践してきた経験をもつ教員が講義をおこなう					
<b>《科目目標》</b> 学習目的：看護師が看護実践するために必要ながん・終末期看護の知識について理解する 学習目標： <ul style="list-style-type: none"> <li>・がんの病態・治療の特徴、日常生活への影響を理解し、がん患者が安全安楽にその人らしい生活が送れるよう援助する方法を学ぶ</li> <li>・終末期にある人の心身の変化を理解し、心身の苦痛を緩和する看護を学び死生観を養う</li> </ul>					
<b>《成績評価の方法》</b> 筆記試験					
<b>《使用教材(教科書)及び参考図書》</b> ナーシンググラフィカ 成人看護学⑥ 緩和ケア メディカ出版 公衆衛生がみえる MEDIC MEDIA					
<b>《授業外における学習方法》</b> 指定した自己学習は必ず取り組み、効果的に理解を深められるようにする					
<b>《履修に当たっての留意点》</b>					
回数	時間数	内 容			教授方法
1	2	緩和ケア概論：緩和ケアとは何か、緩和ケアの現状、緩和ケアにおける看護師の役割を理解する			講義
2	2	がんの病態と診断、治療の特徴			講義
3	2	がん治療に対する看護：化学療法、放射線療法、造血幹細胞移植			講義
4	2	身体症状とその治療・看護① 痛みの症状マネジメントの基本を理解する			講義
5	2	身体症状とその治療・看護② 痛み以外の症状マネジメントの基本を理解する			講義
6	2	精神症状とその治療・看護			講義・演習
7	2	身体・精神症状に対する看護ケア			演習
8	2				
9	2	緩和ケアのコミュニケーション			講義・演習
10	2	意思決定を支える看護			講義・演習
11	2	緩和ケアと生命倫理			講義・演習
12	2	非がん患者の緩和ケア			講義
13	2	地域・在宅緩和ケア			講義・演習
14	2	家族ケア			講義
15	2	臨死期のケア			講義・演習

令和6年度 授業計画 (シラバス)

科目名	成人看護の方法Ⅳ	科目区分	専門分野	授業の方法	講義・演習
対象学年	2 学年	単位 (時間)	1 (30)	開講時期	2 年後期
<b>担当教員：</b> 専任教員 <b>実務経験のある教員による授業</b> <input checked="" type="checkbox"/>					
急性期看護の実務経験を活かして、救急看護・クリティカルケア看護の基礎知識と看護援助方法について教授する					
<b>《科目目標》</b> 疾病の急激な発症や急変によって起こった生命の危機的状態にある患者と家族に対する看護を学ぶ					
<b>《成績評価の方法》</b> 筆記試験					
<b>《使用教材 (教科書) 及び参考図書》</b> 系統看護学講座：別巻 救急看護学 医学書院					
<b>《授業外における学習方法》</b> 文献学習					
<b>《履修に当たっての留意点》</b> 授業の中でグループワークを多く行います。積極的に意見交換をし、自分自身の意見を述べて学びを深めていってください。					
回数	時間数	内 容			教授方法
1	2	救急看護とクリティカルケアの特徴 救急医療体制と救急搬送システム 救急看護・クリティカルケアの場			講義
2	2	救急外来におけるトリアージ			講義・演習
3	2	ショックとその対応			講義
4	2	心停止とその対応			講義
5	2	対象と家族の心理状態とその関わり			講義
6	2	脳死と臓器移植			講義・演習
7	2	胸痛の看護①			講義・演習
8	2	胸痛の看護②			講義・演習
9	2	意識障害への対応①			講義・演習
10	2	意識障害への対応②			講義・演習
11	2	クモ膜下出血の看護			講義・演習
12	2	急性呼吸不全の看護			講義
13	2	救急看護・クリティカルケア看護の専門性			講義
14	2	気管内吸引			演習
15	2	気管内吸引			演習

令和6年度 授業計画 (シラバス)

科目名	成人看護の方法Ⅴ	科目区分	専門分野	授業の方法	講義・演習
対象学年	2 学年	単位(時間)	1 (30)	開講時期	2 年後期
担当教員： 専任教員		実務経験のある教員による授業 <input checked="" type="checkbox"/>			
外科病棟での実務経験を活かして、周手術期の生体反応や看護の方法について教授している。					
<p>《科目目標》</p> <p>周手術期にある人の身体的・心理的・社会的特徴とそれらに応じた看護を学び、周手術期にある人を支援するために必要な基礎的能力を養う。</p>					
<p>《成績評価の方法》</p> <p>筆記試験・レポート、ピア評価</p>					
<p>《使用教材(教科書)及び参考図書》</p> <p>講義から実習へ 高齢者と成人の周手術期看護 1, 2, 3 医歯薬出版</p>					
<p>《授業外における学習方法》</p> <p>演習前の技術練習は怠らないようにしましょう。</p>					
<p>《履修に当たっての留意点》</p> <p>疾病と治療Ⅴ(麻酔・生体反応、手術)で学習した内容を復習する。 この講義で学習することは、直接成人・老年看護学実習Ⅳにつながるものとなります。分からないことをそのままにしないようにして下さい。</p>					
回数	時間数	内 容			教授方法
1	2	周手術期看護とは・周手術期の心理過程の特徴・術前検査			講義
2	2	手術室の環境・手術室における看護・麻酔・Moore 分類			講義
3	2	生体侵襲理論・循環器系・呼吸器系への影響と看護 消化器系・術後感染への影響と看護・ドレーン管理			講義
4	2				
5	2				
6	2	術後におこりうる問題を考える・関連図・アセスメント・看護計画			講義
7	2	アセスメント・看護計画における補足説明 麻酔や手術に影響を及ぼす事項・術後ベッド			講義
8	2	事例における疾患の理解(胃がん・幽門側胃切除術)			講義
9	2	事例における関連図の作成・アセスメントと1日目の看護、を考える			GW
10	2				
11	2				
12	2				
13	2	事例における1日目の看護を実践する(バイタルサイン測定・清拭			演習
14	2	/陰洗・離床)			
15	2	術後日数に合わせた看護・クリニカルパス・退院後の生活を考える			講義

令和6年度 授業計画 (シラバス)

科目名	成人・老年看護学実習Ⅱ	科目区分	専門分野	授業の方法	実習
対象学年	2 学年	単位(時間)	2 (90)	開講時期	2 年後期
<b>担当教員：</b> 専任教員 <b>実務経験のある教員による授業</b> <input checked="" type="checkbox"/> 成人看護に携わった教員及び臨床看護師が教授している					
<b>《科目目標》</b> 成人・老年期の対象の特徴を踏まえ、様々な健康レベルにあり治療の場に入院する対象の全人的理解に努める。また、既習の慢性期・回復期・終末期の経過別看護やがん看護の視点をもって、問題解決のための過程を理解する。既習の知識・技術の統合あるいは新たな学習により、必要な看護を実践し、評価することを学ぶ。 上記の学習を学生間で協力して学び、実習メンバー間の情報の共有や協調・協力できる力を養う機会とする。					
<b>《成績評価の方法》</b> 実習評価表に基づき評価する					
<b>《使用教材（教科書）及び参考図書》</b> 各講義で使用した教科書や配布資料					
<b>《授業外における学習方法》</b> 対象の病期の看護の特徴について授業内容を復習すること					
<b>《履修に当たっての留意点》</b>					
<b>実習プログラム</b>					
<b>実習期間 時間数</b>	2 学年後期 合計 90 時間				
<b>実習内容</b>	1. 成人・老年期にある対象とその家族を理解する 2. 対象の健康状態やセルフケア能力に応じた支援・援助を行う 3. 対象および家族を支える看護師と他職種の役割、多職種連携について考える 4. 対象への看護を通して自己の看護観を養う 5. 看護者としての姿勢、態度を身につけ、自己の向上に努めることができる				

令和6年度 授業計画（シラバス）

科目名	成人・老年看護学実習Ⅳ	科目区分	専門分野	授業の方法	実習
対象学年	3 学年	単位（時間）	2（90）	開講時期	3 年全期
<b>担当教員：</b> 専任教員 実務経験のある教員による授業 <input checked="" type="checkbox"/> 成人看護に携わった教員及び臨床看護師が教授している。					
<b>《科目目標》</b> 1. 周手術期にある対象の全身状態の改善を図り、回復力を高めるとともに、対象のセルフケア能力を引き出し、自立へと援助するための基礎的知識・技術・態度を養う 2. ICU・ERICUにおける対象の特徴と看護の実際を知り、生命の危機的状況にある人を支える看護師の役割について考える。					
<b>《成績評価の方法》</b> 実習評価表に基づき評価する。					
<b>《使用教材（教科書）及び参考図書》</b> 講義から実習へ 高齢者と成人の周手術期看護 1, 2, 3：医歯薬出版					
<b>《授業外における学習方法》</b> 事前学習、技術練習を行う					
<b>《履修に当たっての留意点》</b> 1. 提示された事前課題に積極的に取り組み、実習に活用できるように理解する。 2. 事前学習をもとに、患者の個別性が理解できるように実習記録に積極的に取り組む。 3. 患者の術後経過に応じ、異常の早期発見・合併症の予防ができるよう必要な看護について考え実践する。					
<b>実習プログラム</b>					
<b>実習期間</b>	3 学年 5 月～11 月				
<b>時間数</b>	合計 90 時間				
<b>実習内容</b>	1. 周手術期にある患者とその家族の心理状態を理解する。 2. 患者の病態および治療方法を理解し看護の方向性がわかる 3. その人らしさを考えながら、全身状態の改善を図り、回復力を高めるとともに、対象のセルフケア能力を引き出し、自立に向けての支援を実施できる 4. 周手術期における多職種連携を理解する 5. 周手術期にある人を支える看護師の役割を考えることができる 6. ICU・ERICU での看護師の役割を理解する 7. 看護者にとって必要な態度を身につける				